

文化経済学会<日本> 2019年度研究大会分科会 プログラム

分科会① 6月29日(土)10:00-11:45

①-A 文化統計

座長 牧 和生(九州国際大学)

論題	Clustering Countries into Culturally-Resembling Groups Using Cultural Goods Trade Data
発表者	高良 佑樹(千葉経済大学)
討論者	勝浦 正樹(名城大学)
論題	Has Income Inequality Caused Consumption Inequality of Art and Culture in Japan?
発表者	谷口 みゆき(早稲田大学)
討論者	八木 匡(同志社大学)
論題	大学生の芸術需要構造に関する計量分析
発表者	有馬 昌宏(兵庫県立大学)
討論者	牧 和生(九州国際大学)

①-B 文化産業①

座長 宮崎 刀史紀((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)

論題	有職文化継承の場としての花街—祇甲・上七軒の年中行事を中心に—
発表者	中原 逸郎(京都楓錦会)
討論者	宮崎 刀史紀((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)
論題	「パレートの法則」と「ロングテール」の「共存」:AKB48総選挙の得票数の分析から
発表者	瀬藤 康嗣(フェリス女学院大学)
討論者	阪本 崇(京都橘大学)
論題	Customer Value Creation, Marketing Strategy and Management Resources –The Cases of Small Local Cinemas–
発表者	金井 秀介(立命館アジア太平洋大学)
討論者	後藤 和子(摂南大学)

①-C 思想と文化

座長 片山 泰輔(静岡文化芸術大学)

論題	アートボランティアから市民社会参加へ～緩やかな紐帯と段階的社会参加の創発から～
発表者	藤原 旅人(九州大学大学院)
討論者	熊倉 純子(東京藝術大学)
論題	文化財保護の意義についての史的考察—1871年(明治4)「古器旧物保存方」から2018年(平成30)改正「文化財保護法」まで—
発表者	奥野 耕平(同志社大学大学院)
討論者	井上 敏(桃山学院大学)
論題	人間発達支援と現代文化資本論の課題—アーレント「仕事」論の意義
発表者	本田 洋一(大阪市立大学)
討論者	清水 裕子(大阪市立大学)

①-D 会員企画セッション

論題	劇場における芸術を通じた社会関係資本の形成について —「alaまち元気プロジェクト」の事例から—
企画趣旨・内容	<p>可児市文化創造センターalaでは、2008年より「alaまち元気プロジェクト」というコミュニティ・プログラムを実施している。</p> <p>このプログラムの主な特徴は、①劇場が市民・企業・学校・福祉施設・NPOなど様々な地域のステークホルダーと連携していること、②文化芸術がもつ「想像力＝共感力」と「創造力＝共創力」を触媒とすることで、「生きづらさ」を感じている人々を地域から孤立させないという社会課題の解決に目的を置くこと、の2点である。</p> <p>プログラムの成果としては、複数の人間が関わりあって新しい価値＝仲間・コミュニティをつくり、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の地域的形成が促進されている。</p> <p>さて、今回は「alaまち元気プロジェクト」の中から、3例ほど取り上げ、参加者にヒアリングなどをしながら具体的なエピソードを交えつつ、現場でどのような社会関係資本が形成されているのかについて事例発表をする。</p> <p>発表事例(案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ココロとカラダの健康ひろば」: 60歳以上なら誰でも参加可能な演劇・ダンスワークショップを通して、参加者同士が地縁・血縁ではない新たな関係性を築くプロジェクト。 2. 「多文化共生プロジェクト」: 外国籍が約7%いる可児市において、異なる言葉や文化を持った人々が1つの舞台作品を共に作ることによって、他者との関係性を築くプロジェクト。 3. 「あしながおじさんプロジェクト」: 地元企業・団体・個人の寄附により市内中高生へ公演チケットをプレゼントし、地域の文化資源を活用して、継続的に地域社会の活性化を図るプロジェクト。
報告者	<p>発表者: 半田将仁(可児市文化創造センターala) 西田充晴(公益財団法人大垣市文化事業団) alaまち元気プロジェクト参加者 1名程度 予定討論者: 佐々木雅幸(同志社大学)</p>

分科会② 6月30日(日)10:00-11:45

②-A 文化政策

座長 吉田 隆之(大阪市立大学)

論題	アートプロジェクトボランティアによる評価実践
発表者	三宅 美緒(北海道大学大学院)
討論者	吉田 隆之(大阪市立大学)

論題	舞台芸術におけるアーカイブをめぐる論点と展望 -海外の文化政策と事例をもとに-
発表者	志村 聖子(相愛大学)
討論者	河島 伸子(同志社大学)

論題	ミュージアムの評価指標と評価手法—その現状と課題
発表者	後藤 和子(摂南大学)
討論者	佐々木 亨(北海道大学)

②-B スポーツ

座長 吉本 光宏((株)ニッセイ基礎研究所)

論題	公共放送による広聴制度の一考察～東京2020オリンピック・パラリンピックを事例に～
発表者	小林 壘(同志社大学大学院)
共同発表者	横山 勝彦(同志社大学)

討論者	吉本 光宏((株)ニッセイ基礎研究所)
論題	子どもの「居場所」となるスポーツプログラム—社会的インパクトを視点に—
発表者	米村 真悟(同志社大学大学院)
討論者	川井田 祥子(鳥取大学)
論題	スポーツと文化の政策融合に関する一考察—東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを視点に—
発表者	内藤 正和(愛知学院大学)
共同発表者	横山 勝彦(同志社大学)
討論者	太下 義之(文化政策研究者・(独)国立美術館)

②-C 創造都市

座長 佐々木 雅幸(同志社大学)

論題	レジデンス、プロジェクト、コミュニケーションへの岐阜県美術館の取組みについて—博物館施策と社会の変化に対応する地方公立美術館の試み
発表者	鳥羽 都子(岐阜県美術館)
討論者	衛 紀生(可児市文化創造センター)
論題	革新と継承を担う創造の場の形成過程 —京都や金沢に立地する教育研究機関と工芸作家の相互作用—
発表者	前田 厚子(同志社大学大学院)
討論者	萩原 雅也(大阪樟蔭女子大学)
論題	創造的人材集積と創造都市・創造農村～クリエイティブ・クラスターの可能性と課題
発表者	野田 邦弘(鳥取大学)
討論者	佐々木 雅幸(同志社大学)

②-D 会員企画セッション

論題	地域社会と芸術のしなやかさ —変容し続けるシンガポールから日本への示唆—
企画趣旨・内容	近年、日本では、芸術を通しての社会包摂が注目を集めており、優れた実践がある。だが、その用語のみが先行している感も否めない。 2012年のシンガポールの文化政策の方針の重要な一部として、社会包摂も掲げられている。一方で、民間団体は、それ以前から社会包摂を目指し地域に密着した芸術文化活動を行っていた。現在では、シンガポールの多様なアクターが、それぞれのアジェンダを掲げ、社会包摂分野に貢献しようとしている。 本発表は、以上の背景を基に、シンガポールの多様な事例を紹介し、その実践方法の基礎となる理論と思想、アクターの分類を行う。そして、聴衆とともに、芸術に関わる社会包摂の在り方について議論したい。
報告者	南田明美(神戸大学大学院国際文化学研究科博士課程後期課程／大阪音楽大学ミュージックコミュニケーション非常勤助手) 齋藤梨津子(シンガポール国立大学博士課程) 伊志嶺絵里子(東京芸術大学非常勤講師)

分科会③ 6月30日(日)13:30-15:15

③-A 観光

座長 井口 貢(同志社大学)

論題	観光財源に関する経済・財政面の影響の検討・整理
----	-------------------------

発表者	山本 史門((株)野村総合研究所)
討論者	井口 貢(同志社大学)

論題	観光における自然資源の文化資源化のプロセスの分析と課題
発表者	敷田 麻実(北陸先端科学技術大学院大学)
討論者	野田 邦弘(鳥取大学)

論題	建造物文化財は稼げるか～文化財保護法改正(2019年4月1日施行)がもたらす文化財観変容の効果と課題
発表者	藤原 恵洋(九州大学)
討論者	勝又 英明(東京都市大学)

③-B 文化産業②

座長 高島 知佐子(静岡文化芸術大学)

論題	趣味縁による都心空間の暫定利用と表出行為
発表者	加藤 康子(北海道大学大学院)
討論者	草加 叔也((有)空間創造研究所)

論題	伝統産業としての日本の自動車産業 承認図の壁を打ち破る独立型自動車ティア2企業の実証研究
発表者	佐藤 政行(経済経営都市研究所)
討論者	八木 匡(同志社大学)

論題	食文化と果樹生産の考察:栗の日仏比較から
発表者	森崎 美穂子(大阪市立大学)
討論者	増淵 敏之(法政大学)

③-C 会員企画セッション

論題	創造する地域社会の構想
企画趣旨・内容	<p>“創造都市”という概念が登場して約20年、都市のみならず小規模自治体でも関心が高まり“創造農村”の取り組みも展開されている。本セッションでは、創造性をキーワードに様々な社会課題を解決しようとする試みを紹介するとともに、今後の地域社会の在り方を展望することが目的である。</p> <p>個々人が創造的な働き方を追求しながら、社会的・文化的・経済的価値のバランスを図って持続的に発展する社会システムを、個々の現場に即してどのように創出していくのかということを議論する。</p> <p>セッションの冒頭では創造都市論の提唱者である佐々木氏が問題提起を行い、創造都市・創造農村の最新の動向と直面する課題に関して数人が発表を行い、後半ではコミュニティデザイナーの山崎氏を迎えてディスカッションを行う。</p>
報告者	<p>ゲストコメンテーター: 山崎亮(株式会社studio-L代表取締役)</p> <p>発表者: 清水麻帆(大正大学地域構想研究所助教) 鈴木美和子(大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員) 竹谷多賀子(同志社大学嘱託講師兼創造経済研究センター嘱託研究員) 田代洋久(北九州市立大学法学部政策科学科教授)</p> <p>モデレーター: 佐々木雅幸(同志社大学特別客員教授)</p>

(記載内容は変更される場合がございます)